山口県病院協会会報

2026
10月号

No. 93

●発行日　令和８年10月１日
●発行所　一般社団法人 山口県病院協会　〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目１番１号
●電　話　083-923-3682　●ＦＡＸ　083-923-3683
●発行人　神徳　眞也　●メールアドレス　info@yha.or.jp　●ホームページ　http://www.yha.or.jp
●印刷所　株式会社マルニ

医療法人全眞会
全眞会病院

住　所：〒758-0063　萩市大字山田字西沖田4807番３
電　話：0838-22-4106　ＦＡＸ：0838-22-3788
ＵＲＬ：https://zenshinkai.sakura.ne.jp/

CONTENTS（目次）

会員病院紹介 …… ２ページ
協会役員コーナー …… ３ページ
病院スタッフコーナー …… ４ページ
医療懇話会報告 …… ５ページ
医療経営講習会報告 …… ５ページ
部会コーナー …… ６ページ
トピックスコーナー …… ７ページ
お知らせコーナー …… ８ページ

会員病院紹介

理事長挨拶 ～医療法人全眞会 全眞会病院～

医療法人全眞会
全眞会病院
理事長病院長

中村　丘

全眞会病院の紹介からはじめさせていただきます。全眞会病院は平成13年に萩市中心部の唐樋町から橋本川河口左岸の萩市山田に移転しました。母体は昭和26年３月に設立された全眞会 唐樋病院にさかのぼることができます。昭和55年の江向病院廃止時に全眞会病院となっています。理事長・院長は私で５代目となります。令和８年７月現在の常勤医師は中村勝昭先生（72歳）、元萩市医師会長・池本和人先生（85歳）、私（68歳）の３名です。

病院運営の状況は、山口大学第１外科、第３内科、精神科より非常勤医師を派遣していただき、入院診療（リエゾン）、当直業務を担っていただいております。高齢独居、老々介護患者の入院需要の増加とともに、認知症の問題、フレイル・サルコペニアに伴う嚥下機能の低下の問題、さらには認知症を伴う糖尿病患者に対応するため、認知症周辺症状のコントロールの強化、嚥下評価・対応の強化にも積極的に取り組んでいます。建屋の２階が医療療養病棟、３階が介護医療院となっており、医療保険と介護保険の別保険で施設運用を行っている関係上、職員の処遇人事面で煩雑なことも多く、ベースアップ評価料と介護職処遇改善手当の適応についてはかなり苦労をしております。医療職・介護職の雇用は北浦地域という地理上の問題もあります。人材派遣会社を利用すれば、雇用コスト上昇となります。

病院を取り巻く環境は先行き不透明で本当に厳しいものがありますが、地域の住民から一定の評価を得た病院ですから、患者さんの評価を落とさないよう医療・介護の質を高め運営を進めていくつもりです。今後とも協会の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

病院の現状

１）概　要

名　称　医療法人全眞会　全眞会病院
開設者　理事長　中村　丘
所在地　萩市大字山田字西沖田4807番３
病院長　中村　丘
ＴＥＬ　0838-22-4106
ＦＡＸ　0838-22-3788
ＵＲＬ　https://zenshinkai.sakura.ne.jp/
病床数　54床（療養病床54床）
診療科　内科、消化器科、循環器科、呼吸器科、放射線科、リハビリテーション科、精神科（入院診療のみ）
併設施設　介護医療院（入所定員54名）

２）沿　革

昭和26年３月	医療法人 全眞会 開設 江向病院 唐樋病院
昭和27年12月	全眞会見島診療所開設
昭和28年１月	全眞会須佐診療所開設
昭和28年６月	全眞会須佐診療所廃止
昭和30年９月	全眞会山田診療所開設
昭和33年12月	全眞会見島診療所廃止
昭和34年５月	全眞会山田診療所廃止
昭和55年５月	医療法人全眞会江向病院廃止
昭和55年７月	医療法人全眞会唐樋病院を全眞会病院へ病院名変更
平成13年３月	医療法人全眞会全眞会病院新築移転（現在地）
令和２年４月	介護療養病床54床を介護医療院へ転換

３）特　徴

理念：心温まる病院
指針：笑わない方には一日一度でも笑顔を、
　　笑顔のある方には声を出して笑うことを、
　　身体が清潔であることを、
　　一時でも家庭の和みのあること。

当病院は、昭和26年3月に開設、創立50周年と時を同じくして、平成13年3月1日より、萩市玉江浦に新築移転し施設サービスの充実を図っています。

また、私たちは、的確な医療を下支えに、個々の患者の能力に応じた入院生活または、療養生活 が送れるよう、ベッドサイドでのリハビリを重視した介護サービスの提供、そして急性期病院から早期退院したが、すぐには自宅や施設に戻れない症状の重い方々の社会復帰を目指した亜急性期医療の提供など、診察と介護を適切に組み合わせた入院ケアの充実に力を注いでいます。

「協会役員コーナー」

地域で必要とされ続ける法人を目指して

医療法人南和会
みどり病院
理事長病院長
吉居　俊朗

世界的な紛争や物流の停滞などにより国際情勢は依然として不安定な状況が続いており、エネルギー価格をはじめとする物価の高止まりも長期化しています。こうした物価上昇は、原材料や燃料費などの供給コストの増加によるコストプッシュ・インフレとして定着し、医療・介護分野を含め、地域経済や事業運営にも大きな影響を及ぼしています。

このような状況の中、医療・介護分野では物価や人件費の上昇分を十分にサービス価格へ反映することが難しく、多くの医療機関や介護事業所が厳しい状況にあることは広く知られている事実です。収支の悪化だけでなく、人材確保や職員の負担増、サービス提供体制の維持など、さまざまな課題への対応が求められ、また、新たな地域医療構想に基づく医療提供体制の見直しへの対応等、地域の実情に応じた柔軟な対応も重要になっています。

昨年度の補正予算から令和８年度診療報酬・臨時介護報酬改定と対応はありましたが、想定を超える費用の上昇は、業務の効率化や運営コストの見直しなどのこれまでの手法を大きく凌駕しており、その向き合い方を変える必要性に迫られているとも考えます。

当法人では、地域の皆様に必要な医療・介護サービスをこれからも安定して提供し続けることを何より大切に考えています。そのため、職員確保の対策（外国人材を含めた多様な人材の確保・育成）を進め、安心して働ける職場づくりに取り組み、延いては利用者が安心して利用できる、地域から信頼され必要とされ続ける法人であるために、一つひとつの課題に着実に取り組んで参ります。

「地域に信頼される病院」を目指して

綜合病院山口赤十字病院
病院長
末兼　浩史

近年、医療を取り巻く環境は、高齢化や人口減少、医療従事者の不足、感染症への対応、さらには健診や予防医療の重要性の高まりなど、大きく変化しています。当院では、こうした社会の変化に対応しながら、地域の中核病院として、安全で質の高い医療の提供に努めるとともに、地域医療を支える役割を果たしてまいりました。

令和４年10月に新病棟が完成し、地域医療構想に基づく病床機能の見直しを行うとともに、患者さんにとって利用しやすく、安心して治療できる環境を整備しました。一方で、救急患者や紹介患者の円滑な受入れや地域医療機関との連携など、さらに充実を図るべき課題もあります。

こうした課題に対応するため、今年４月より循環器内科医師３名と腫瘍内科を専門とする医師を迎え、診療体制を強化しました。加えて、最新の医療機器や診断技術を活用し、より質の高い医療を提供できる体制づくりを進めています。また、地域のクリニックや医療機関との連携を一層深めるとともに、ホームページや広報活動の充実を通じて、当院の取り組みを積極的に発信してまいります。

2027年５月、日本赤十字社は創立150周年を迎えます。当院も赤十字の「人道」の精神を受け継ぎ、患者さん一人ひとりに寄り添いながら、安心して受診し、治療に専念できる医療環境を提供してまいります。これからも職員一丸となって医療の質の向上に努め、「地域に信頼される病院」を目指して歩みを進めてまいります。

「病院スタッフコーナー」

安心して働ける職場に感謝して

医療法人緑山会
下松中央病院
看護師
中村　絢乃

私は看護師として働く中で、妊娠・出産という人生の大きな節目を迎えました。妊娠中から現在の職場で多くの方々に支えられ、体調への配慮や業務のサポートをいただいたおかげで、安心して産休・育休に入ることができました。

その後、育休を終えて職場復帰が決まったときは、「仕事と家庭を両立できるだろうか」「ブランクがある中で看護師の業務についていけるだろうか」「新しい環境や人間関係になじめるだろうか」と不安ばかりが募っていました。

実際に復帰してみると、慣れない生活リズムに戸惑い、子どもの体調不良で急なお休みをいただくことも多く、周囲にご迷惑をおかけして申し訳ない気持ちでいっぱいでした。しかし、そのような時でも温かい言葉をかけ、快くフォローしてくださるスタッフの皆さんの存在に、何度も救われました。

業務面でも丁寧にサポートしていただき、一つずつできることを増やしながら自信を取り戻しています。また、当院には託児所があり、安心して子どもを預けられる環境が整っていることも、仕事と育児を両立する上での大きな支えとなっています。

子育てと仕事の両立は簡単ではありませんが、一人で抱え込むのではなく、周囲に支えられながら働ける環境があることに心から感謝しています。今後は、私が支えていただいた分を周囲に還元し、同じように不安を抱える職員の心に寄り添える看護師でありたいと思います。そして、患者さんにも安心と信頼を届けられるよう、一日一日を大切に成長していきたいです。

「地域に寄り添い 地域とともに」歩む回復期リハビリテーション ～住み慣れた街で“その人らしい生活”を支え続ける応援団として～

一般社団法人巨樹の会
下関リハビリテーション病院
医療技術部部長
リハビリテーション科課長
理学療法士
波多野　崇

当院は高齢化率約37％の下関市に位置する「地域に寄り添い　地域とともに」をスローガンに掲げる回復期リハビリテーション病院です。入院患者様へのリハ・ケアは勿論、自宅復帰された後も「いつまでもその方らしい生活の定着」を支える応援団として、外来・訪問・通所リハサービスも提供させていただいています。また、地域住民の健康維持・増進に寄与するべく介護予防事業や自治体からの健康教室依頼にも積極的に参加させていただいています。これら一定のサービスを提供する一方で、「地域」に対し何ができるのか、スタッフ達は日々、試行錯誤と挑戦の毎日です。

患者様にとって、病院を退院される日は、これから始まる生活に対する期待と不安が入り混じったスタートでもあります。専門職として、そうした状況にどう寄り添っていくかが非常に大切だと感じます。

私たちは、医療従事者であると同時に地域で暮らしている住民の1人でもあります。患者様が病前より大切にされている習慣や価値観を継続していく為にも、病院の取り組みの深化や専門職による研鑽が必要なことは周知の通りです。それに加え、人と人とのつながりを通じ、地域の暮らしや資源について知る姿勢も大切にしたいと考えています。

これからも「住み慣れた地域で、その方らしく、いつまでも、いきいきとした生活を」の一助になれると信じ、職員一丸となって励んで参ります。

医療懇話会報告

令和８年８月26日（水）、セントコア山口において令和８年度医療懇話会が開催され、山口県健康福祉部からは石丸泰隆部長ほか計12名、山口県病院協会から神徳眞也会長ほか計19名が出席した。

神徳会長ならびに石丸部長より挨拶がなされ、出席者の自己紹介が行われた。続いて、健康福祉部の各課長より、令和８年度の山口県健康福祉部の事業概要についての説明がなされた。

続いて協会側からの質問や意見要望が県へ伝えられ、各担当課長と積極的な意見交換がなされた。

神徳　眞也　会長

石丸　泰隆　部長

懇話会風景

医療経営講習会報告

令和８年度　夏期医療経営講習会

令和８年７月30日（木）、セントコア山口において令和８年度 夏期医療経営講習会が開催された。

講師には社会医療法人名古屋記念財団 名古屋記念病院の理事長 太田 圭洋 氏をお招きした。

太田氏は一般社団法人日本医療法人協会 副会長として中央社会保険医療協議会に参画されており、その現場を熟知しておられる太田氏ならではの講演を、58名が聴講した。

演　題　「2026年診療報酬改定と今後の病院医療」

講　師　太田　圭洋（よしひろ）　氏

一般社団法人日本医療法人協会　副会長

社会医療法人名古屋記念財団　名古屋記念病院　理事長

太田　圭洋　氏

講習会風景

「部会コーナー」

看護部長部会

令和８年度　看護部長部会総会および第１回研修会

令和８年９月４日（金）、セントコア山口において令和８年度 看護部長部会総会および第１回研修会が開催され、38名が参加した。総会では下記名簿のとおり役員の補充選任が発表され承認された。また、看護部長同士のネットワーク構築によるピアサポートをテーマとした研修が行われた。

大林部会長 挨拶

研修会風景

【看護部長部会 役員名簿】

部 会 長	大林　由美子	（山口赤十字病院）
副部会長（関門支部）	岩本　なお子	（山口県済生会豊浦病院）
常任幹事（厚南支部）	上田　三千代	（厚南セントヒル病院）
常任幹事（県央支部）	安本　昌代	（山口県済生会山口総合病院）
常任幹事（周南支部）	前田　美貴	（光市立光総合病院）
常任幹事（岩柳支部）	河邉　景子	（岩国市医療センター医師会病院）

【研修会】

《第１部》「一人で頑張らなくていい～トップマネージャーのウェルビーイングを支えるピアサポート～」
発表者：岩本　なお子、安本　昌代
《第２部》グループディスカッション

事務長部会

令和８年度　事務長部会総会および第１回研修会

令和８年９月17日（木）、セントコア山口において令和８年度 事務長部会総会および第１回研修会が開催され、53名が参加した。総会では常任幹事、支部幹事ともに異動変更は無いことが確認された。また、東京海上日動火災保険株式会社の協力を得て、下記のとおり研修が行われた。

室田副部会長 挨拶

飯田氏

清水氏

【事務長部会 役員名簿】

部 会 長	嶋崎　隆郎	（都志見病院）
副部会長	橋本　雅徳	（周南記念病院）
副部会長	室田　義文	（尾中病院）
常任幹事	西原　寛之	（周東総合病院）
常任幹事	藤部　恭史	（小郡第一総合病院）
常任幹事	石川　和彦	（脳神経筋センターよしみず病院）

【研修会】

《第１部》「職員が辞めない病院づくり
～採用・定着の実践ポイントと地域連携～」
講師　株式会社船井総合研究所　介護・福祉支援部
アソシエイト　飯田　理恵　氏
《第２部》「機能してる?!機能してない?!その連帯保証人。
～未収金と連帯保証人が及ぼす影響について～」
講師　株式会社イントラスト
第２営業部部長　清水　俊夫　氏

「トピックスコーナー」

3070・ピンクリボンキャンペーン

10月は、厚生労働省が定める「がん検診受診率向上に向けた集中キャンペーン月間」、および山口県の「やまぐちピンクリボン月間」です。

山口県では、「やまぐち3070運動」をはじめ、「やまぐち3070・ピンクリボンキャンペーン」などを通じて、20～30代女性をはじめとする県民の皆様に、がん検診の重要性等について普及啓発に取り組んでいます。

地域住民の皆様に、がん検診への関心を深めていただけるよう、周知等へのご協力をお願いいたします。

山口県病院協会が共催・後援する集会等のお知らせ

【リレー・フォー・ライフ・ジャパン2026やまぐち】

・開催日時　令和８年10月24日（土）　12：00～16：00
・開催場所　山口県総合保健会館　多目的ホール
・問合せ先　リレー・フォー・ライフ・ジャパンやまぐち実行委員会　Tel：083-933-0008

【循環器対策県民フォーラム・やまぐち健幸食生活フォーラム（やまぐち健康経営フォローアップ講習会）】

・開催日時　令和８年11月８日（日）　12：30～16：30
・開催場所　下関市民会館　中ホール等
・問合せ先　山口県健康増進課　Tel：083-933-2950

【日本医療マネジメント学会　第25回山口県支部学術集会】

・開催日時　令和８年11月21日（土）　13：00～17：00
・開催場所　岩国医療センター附属岩国看護学校
・問合せ先　独立行政法人国立病院機構岩国医療センター管理課　Tel：0827-34-1000

【第23回山口県ケアマネジメント研究大会】

・開催日時　令和８年12月12日（土）　10：00～16：00
・開催場所　YMfg維新セミナーパーク　大研修室
・問合せ先　一般社団法人山口県日本介護支援専門員協会　Tel：083-976-4468

「お知らせコーナー」

令和８年度山口県救急医療功労者知事表彰（山口県病院協会推薦）

多年にわたり、地域救急医療体制の確立に尽力された功績により表彰される山口県救急医療功労者知事表彰は、今年度は次の病院に決定し、９月９日に山口県庁において伝達されました。おめでとうございます。

光市立光総合病院（病院長　中村　安真）

山口県庁にて（前列右が中村病院長）

会員の変更、異動など

【会員の変更】

	変更後	変更前
• 錦病院	理事長　藤本　浩一	理事長　大浅　貴朗
• 都志見病院	理事長　山本　達人	理事長　都志見睦夫

病院協会の主な行事予定

● 10月８日	病院職員研修会	（会場：セントコア山口）
● 10～11月	第２回理事会	（会場：未定）
● １月９日	医療関係団体新年互礼会	（会場：かめ福オンプレイス）
● １月中旬	第３回理事会	（会場：未定）
● １月22日	四県病院協会連絡協議会	（会場：広島県）

編集後記

◆新たな地域医療構想策定に向けた議論が各地で始まりました◆これまでも多くの医療機関において、病床機能の分担を意識し、それを基盤とした連携が進められてきました。しかし、人口減少と働き手の不足がさらに進む中、これまでの連携の延長線上だけでは立ち行かない局面も見えてきています。自院が地域の中でどのような役割を担うべきか改めて問い直すとともに、医療機関同士にとどまらず、介護施設や在宅サービスとも情報や機能を共有し合う、新たな次元での連携が求められています◆病病連携・病診連携で完結する医療から、地域全体で患者・利用者を支える医療・介護の一体的な体制へ。これからの地域の安心を守るためにも、最前線を担う私たち病院自身が積極的に声を上げ、議論に加わっていくことが必要です。本会としても、皆様の議論を後押しできるよう、必要な情報の提供に努めてまいりたいと思います。（尾中　宇蘭）